

市P連だより

あきたっ子

平成19年3月5日

No. 100

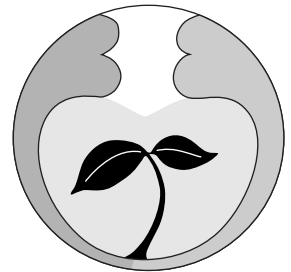


発行 秋田市PTA連合会 市P連シンボルマーク
編集 総務広報部
事務局 秋田市山王二丁目1-53山王21ビル内
☎866-2248 FAX 866-2252
E-mail: akitapta@cna.ne.jp
http://www.akita-pta.jp/

子どもたちが新世紀の担い手として成長してくれることを願い、「あきたっ子」としました。



仁井田地区の小正月行事「火振りかまくら」



秋田市PTA連合会
シンボルマーク

中心の小さな芽は子ども、まわりのハートは両親、先生、地域の人々。全体は地球を表しました。

※PTA連合会創立50周年を記念して、応募作品の中から平成10年9月に制定しました。

1面 ・吉田会長のあいさつ

2面～7面

・学校校章とその由来

7面 ・部会報告 ・スナップあきたっ子

8面 ・こちら家庭教育相談『ぐりーん・えこー』です

・「ことば」の教室 オリブ園

—— 私達に求められるものは? ——



秋田市PTA連合会
会長 吉田 幸雄

秋田市PTA連合会会報『あきたっ子』は一九五七年に第一号が発行され、今年で五十年になります。このたび百号が発行される運びとなりました。

これもひとえに、関係諸団体、諸先輩、そして会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝を申し上げます。

この五十年の間に、子ども達を取り巻く環境が大きく変化しました。「教育は百年の計」と申します。国論を大きく二分し、TMでのやらせなどが明らかとなる中で、少年事件やいじめ、学級崩壊などを理由に『(新)教育基本法』が、昨秋成立しました。

かつてカントは『永遠の平和のために』で言っています。「モラルある政治家は、国にとってなにが最善かをモラルを踏まえて考える。モラルを説く政治家は、自分の政治のためにモラルを利用しようとする」と。

今後とも関係各位の皆様には、ご支援ご協力をお願いを申し上げます。そして、『あなた』の『発言』と『参加』をお待ちしております。

学 校 校 章 と そ の 由 来

市P連だより「あきたつ子」の発行が百号を数えることになりました。

昭和三十二年第一号を発行以来、編集に携わった多くの役員の皆様はもとより、PTA会員諸先輩のご協力がここに蓄積されてきたものとあらためて感慨を深くするものです。

少子高齢社会の到来、個人の価値観の多様化、新たな視点の社会的欲求の高まり等により、いま、私たちを取り巻く様々な社会システムが、特に子供たちの教育環境については、大きな変革期にあることとはご承知のとおりです。

本市全体においては、いまだ深刻な状況になっていないものの、国内、秋田県内全体においては児童数の減少による統廃合の議論が多く開かれるようになってきました。

一人一人が足元を見つめなおす、原点回帰が必要なときかも知れません。

さて、私どもの市P連も、平成十七年度より新たに雄和、河辺地区の小中学校合わせて十一校の仲間が加りました。

今回、記念号にあたり、それぞれの学校を見つめなおすとの意を込め、校章の由来をまとめてみました。正確な意味合い、出身校の歴史、皆さんは知っていましたか。



明德小学校

文政4年(1821)士族の子弟塾、四如堂に端を発した学校として、旧藩主佐竹氏の代表的家紋である扇を3本組み合わせ、中に「明」の字を入れてある。

3本は知・徳・体を表徴している。



保戸野小学校

矢の根(矢留)をかたどっていると同時に、オモダカ(別名「ほど」)の生えている「野」に栄える学校を表している。3つの角は真実・真理・健康を表している。



中通小学校

桜花を中心に3つの矢の根石を組み合わせたものである。

桜花は優美・文化・平和の心、矢の根石は剛健・勇気・努力の心を表徴している。



旭北小学校

朝日の光線と矢留を表現し、東西南北に伸び栄える姿をうつつしている。また校章には、健康で明るく生きようとの願いがこめられている。



築山小学校

築地・楯山の2校を統合し、築地の「築」と楯山の「山」とって築山学校としたので、その校名を入れてある。

上下はペンの形で文を意味し左右は矛の形で武を意味しており、文武にはげみ成長することを願っている。制定年不明、大正10年には使用している。



川尻小学校

柏の葉は「次代の成長を確認した後はじめてその葉を落とす」といった教育的意義と縁起のよさからデザインに使用された。裏の三葉は、ペンの勉学・雪の結晶・矢留を表している。



牛島小学校

全体の形は、「雪の結晶」を表し、6つの頂点はそれぞれ<英知><清純><剛健><明朗><愛情><忍耐>の気風を象徴している。子供たちの成長への願いが込められている。

昭和5年(11月25日)に、荒木勇太郎訓導の考案で作成された。



旭南小学校

3つの剣は「真・善・美」を表徴し、桜は前身校である旭小学校の校章からとったものである。

大正時代の初めから使われているが、正式に校章に制定されたのは、昭和4年である。



港北小学校

北と小を組み合わせたもので、全体は港をかたちどって、中に船を配し、同時に北と小の文字を表し、躍進する「港北小」を表現している。

高橋良氏（土崎出身）の作で昭和23年12月に制定した。



土崎小学校

全形は船で港に位置することを意味し、「土」の頂き名峰太平山を示し、美術・真理の追求、発展・希望の象徴とし、さかまく波頭は、怒涛をも乗り切る進取の気「港魂」を表す。当時の6年生竹内一由の作で昭和25年に制定した。



旭川小学校

日々を真摯な学習に取り組む学究を表すペン、平和な社会建設を目ざし大きくはばたくはと（鳩）、輝ける明日を招来する旭川小学校の象徴である。



広面小学校

3方のもみ（糶）は広い田の面（も）を表す。教育の理想を知・徳・体の調和に求め、児童・教師・父兄、3者の協調を象徴したもので、昭和28年11月に制定した。



高清水小学校

校章は3本の矢羽と、円環と鐘でかたどられ、中央に校名を「高清水」と横に配したものです。円環と鐘は、秋田城の守護神であった古四王神社の紋章からとったもの。矢羽は、知・徳・体が三者一体であることを表象しています。昭和8年9月8日に校旗樹立式が挙行され、正式に校章が制定されました。当時は高清水の文字は右から表記していましたが、昭和33年度の卒業生が寄贈した校旗から現在のように左から高清水と表記するようになりました。



土崎南小学校

波と波のしづき（土崎小学校の校章が根拠）に平和のシンボルであるはと（鳩）を加えたもので、昭和36年5月に制定した。



太平小学校

山は太平山であり、強く雄々しくたくましさを表わし、羽根は未来に向かってはばたく子供たちを表している。



勝平小学校

校章の図は「勝平」をデザインしたもので、形は「平」の文字と希望に燃えてはばたくはと（鳩）を象徴し、中の3本の松の葉は、緑したたる松の林におおわれた平和な学園を表している。昭和46年7月制定。



日新小学校

菱形の中の直線は、朝にのぼる太陽の光で、一日の始まりとして輝く「日」、そして中央部に書かれた「新」の文字とを合わせて、校名「日新」を表す。全体の菱形は「協力」と「平和」を意味し、上部の翼は、「強くたくましく生きる力」を形にしたものである。



飯島小学校

中心が飯島の「飯」、それを囲んで2本の松葉があり、そこから4本のペンが四方に伸びている。松は飯島を代表する木で暑さにも寒さにも負けずつねに緑でねばり強く育ち、ペンは勉強に励み将来各方面に活躍することを願っている。昭和3年制定。



外旭川小学校

外旭川を象徴し、円満な人格を願う朝日を中央に、3つの光芒を配したものである。光芒は文化の創造、自主・協調・明朗・健康を表している。



山谷小学校

中庭の「とちの木」に見守られ一日の学校生活が始まる。校章の中心の3つの輪は、知恵・愛情・勇気を表し、お互いに組み合せて円満な人格の形成を表象する。また、父母、教師、子供を表し、3者を組み合わせ、平和な学校を表徴している。



浜田小学校

校名「ハマ田」の三文字を図案化して「内浜田」「中村」「滝ノ下」の三地区を表し、中央の「田」は盾をかたどり、館（タテ・ヤカタ）つまり学校を象徴して三地区のまん中に置いてある。



上新城小学校

常緑を四季にたたえ、蒼々と育つ秋田杉を上新城の姿とし、丈夫な体、すなおな心、正しい知恵を3つの柱としてデザインしたものである。



下新城小学校

中心の輪は下新城地区の笠岡・岩城・小友・青崎・長岡・中野の大字六を表す。3本の八は新城地区の杉を表すと共にすくすく育つことを意味し、松は中野地区の松を表し、海の風にも耐える強さをも表す。昭和36年12月下新城・中野・米川信悦考案の校章を制定した。



四ツ小屋小学校

四ツ小屋小学校の校章は、昭和30年11月9日に創立80周年を記念して創られました。四ツ小屋は大根（すずしろ）の名産地であり、十文字で淡い紫色の美しい大根の花を原型に図案化されたものです。大根の花のように、心の美しい人間に成長してほしいとの願いが込められています。



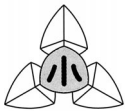
仁井田小学校

校章は秋田フキを表している。右は1・2年生、左は3・4年生、中央のフキは5・6年生を意味している。上級生は下級生を慈しみ、郷土の期待に答え、父母の愛情に答え、先生の教育に感謝する仁井田の子供に育つよう、願いをこめた。



豊岩小学校

「ヨ」の字を円形に10個配し、「豊」を意味している。真ん中の5個の輪は「和」とし、五町内の和と「岩」を表している。外側に月桂樹を配し、豊岩の栄光を願ったものである。デザインは古谷栄太郎（現東京工業大卒）による。



下浜小学校

松の葉を構成、図案化したもので、松のように清く美しく、しかも強さと気品をもった人間を理想として制作。



下北手小学校

本校は明治8年5月に下北手の柳館に開校したが、校章の外側の形は校訓である自治、礼儀、協同を地名に由来する柳の葉で示し、中の盾は柳の館にちなんだものである。



上北手小学校

本校の校章は、「稲穂」の束の上に「星」と「月」が乗せられた形で図案化されている。これは、本県の農聖の一人である森川源三郎翁の「有明の月を抱き、ゆうべに星を仰いで帰る」の勤労の教えに由来している。森川源三郎翁は、晩年の20年余りを上北手古野の「二見山」で過ごし、この「勤労の教え」と「三心（発心・決心・継続心）の教え」を説いて村人を指導した。本校では、この教えに基づいた教育を実践している。



八橋小学校

「八橋」の文字を図案化したもので、「八」の字は地下資源、石油のやぐらをかたどるとともに、伸びゆく学校を表したものである。

昭和48年4月2日制定。



金足西小学校

昭和9年、校舎改築移転事業の一つとして考案されたもので、金・西・小の三文字の図案化のほか、大地（底辺）に立つ五邑（五つの線）の和協をもあらし、周辺の三辺は、知・徳・体の円満な発達をめざす。



金足東小学校

昭和9年10月、創立60周年記念事業にあたり、当時の本校職員であった工藤飛雄太郎氏の発案で制定された。全体の形は、金足の『金』をかたどり、その中心に朝日をかりて『東』を表している。地色の黄金は、稲穂の実りを願ったものである。



大住小学校

- 1、ふきは、新生大住小学校のいぶきとたくましさを表す。
- 2、16角形（線対称）の葉は、バランスと調和のとれた人間の育成を意味する。
- 3、全体の構成は、協調と融和の精神を強調している。昭和55年4月制定



泉小学校

理想に向かって力強く羽ばたく鳥は、泉小の「小」の字を形どり、たくましい意志力と向上心を表し、鳥の上には「泉」を重ねて、泉のような清らかな心を願っている。児玉言美（秋田市）制作。昭和54年4月1日制定。



東小学校

中央の剣形は健康を、左右の扇形は明朗と友情を意味すると共に、三つのプロックは児童・教師・保護者を表し、三者と地域が一致協力してその目的を完遂すること（菱形）を意味している。



寺内小学校

中央部に学校名を配置し、全体を小学校の「小」の文字と六角形を組み合わせて囲みました。

六学年の全児童が強く結びつき、協力し合うことを表しています。



飯島南小学校

秋田市のシンボルである太平山と田園地帯である稲穂を表現し、飯島南小の子供たちが自然にはぐくまれて、健やかに成長することを希望したものである。



桜小学校

桜の花を図案化した小学校の「小」の文字に、校名桜小学校の「桜」を配し、児童・先生・父母の協力と和に支えられた桜小学校の発展と、児童の健やかな成長を、表したものである。



赤平小学校

中央にまるく赤平の字を図案化し、その周りに学区の各町内がまとまっている様子と赤平小の教育の信条である「知力」「体力」「情操」「意志力」の4つを表している。



岩見三内小学校

岩見小学校と三内小学校が統合して、岩見三内小学校となったので、この2校の校章をもとに新しい校章を作成した。ペン先は学問を、杉の葉は岩見三内の豊かな自然を表す。それぞれ3つずつあるのは、岩見地区・上三内地区・下三内地区の3地区を表している。中心部は「岩」「三」「内」「小」の文字を重ね合わせ、地域に根ざした学校としてみんなで協力し、心豊かな子どもたちを育てていきたいという願いがこめられている。



御所野小学校

開校前年度（平成2年度）に児童及び保護者、地域住民、教職員に公募し、当時上北手小6年生の作品が選ばれ、平成3年の開校時に制定された。空に向かう2本の矢は、目標をもってがんばる御所野小の児童の姿を、真ん中の線は、これから伸びゆく姿を表しています。



川添小学校

川添の頭文字のKを三つ組み合わせ、その周りを雄物川の川波で図案化したもので、Kは、健康、共同、教養を表している。（雄和町史より）



戸島小学校

由来不明（数年来調査中ですが、わかりません。もし、おわかりの方がおりましたら部分的なことでもよいので、お知らせください。）



河辺小学校

旧河辺町の町章を参考に制定されたもので、外側の形は河辺の力を抽象化したものである。また、円形は和（全校一心）を表し、全体は大空に飛び立つ鳥の姿を表している。



大正寺小学校

校章は鏡と鳩を組み合わせたもの。鏡はつねに自分を映して正しく反省することを、また、鳩は平和のために尽くすように努めることを表している。昭和24年制定。



戸米川小学校

戸賀沢、米女鬼、相川の三地区の「戸」「米」「川」の三字をとった。この三字の周りを囲んでいるのは、農作業で使う鍬を表したもので、勤労を象徴している。



種平小学校

種初（種平の頭文字）をペン（勉学の意）で結び、中心を円（和）で表徴したもの



秋田東中学校

秋田藩、久保田城、矢留の3つの矢羽を生徒、先生、父母の結集とし、東中の「東」の文字を表したものである。また、生徒会では、3つの矢を友愛・ルール・ファイトの三信条の象徴としている。昭和28年6月に生徒会の公募で制定した。



秋田大学教育文化学部 附属小学校

平和と文化の使徒であり先達たるべき《はと》が精一杯目標に向かって舞いあがり大空をかけてめぐる姿が《はばたき》である。これは極めて深淵・平和と文化も目指すよき生徒、よき社会人の養成を目標とした附小（附中）精神に根ざしている



土崎中学校

全体の形は、船を正面から見た姿で、左右二つの図案化された「土の字」とともに、郷土の土崎と港魂を象徴している。昭和22年7月に制定した。



山王中学校

盾の形は秋田の矢留と学問のペンを象徴し、盾の緑色は若さと希望を表している。稲穂は豊かな実りを下の結びは団結を表したものである。



秋田南中学校

泰平・久保田両中学校が統合し、南中が創立した昭和28年、多数の応募作品の中から採用された当時の1年生の作である。



外旭川中学校

あちこちに油井を仰ぎ、広々とした青田の中に、太平の峰より勢いよく昇る朝日を満身に浴びて、すくすく育ちゆく母校の姿がかたちどられている。



太平中学校

校章は太平山の3つの嶽(だけ)を表している。

この秀峰を間近に仰ぎ、無言の教えを享受し、ここに太平中の伝統が生まれる。



秋田西中学校

西中の二字を組み合わせ、融和と団結を、全体が若鷺の形は清純と希望を、中央のペン先が指す方向は向上と進歩を表している。

制定当時の在校生高橋千秋の作品を採用し、小川彦四郎、鈴木憲夫の両教諭がこれを修正し、昭和39年4月に制定した。



豊岩中学校

丸型の村章を元に、地区の「白華館」の「盾」と中学校の「中」を加え、図案化したものである。

10個の「ヨ」の字を組み合わせ「豊」、輪は「和」を意味して五部落(町内)の和と岩を表している。昭和30年に制定された。



上新城中学校

上新城の地形をかたどり地域の発展を願い、また、地域の特産である秋田杉のように、自然の厳しさにもめげず青々と、しかもすくすく伸びるようにという目標と願望を表している。昭和31年4月制定。



秋田北中学校

「北」の字に「中」を配し、今後の発展を象徴したものである。

統合前の飯島・下新城・金足の三中学校から図案を五点ずつ募集し、検討を加えて飯島校舎三年生若狭慶吉の作を選び、これを当時の追分郵便局長奈良園一が手直しをし昭和37年4月に制定した。



下浜中学校

松の葉を構成図案化したもので、松のごとく清く美しく、しかも強さと気品をもった人間を理想としている。昭和29年10月1日に制定された。



下北手中学校

学校所在地、柳館の地名にちなんで柳の葉に盾を配し、盾の中に中学校の「中」を入れた。

3枚の葉は学校の生徒像の学問・健康・勤労を意味する。



城南中学校

校章の矢は旧秋田藩主佐竹侯の紋章(矢留)を模したものであり、三本の矢羽根は、校訓の礼節・協力・健康を表す。

「城」の文字は城南中学校を表す頭文字であり、「城」の文字をかこむ六角形は、雪国秋田を表す雪の結晶でもある。



将軍野中学校

将軍野中学校の「将」を中心に、外側に秋田城跡のシンボル「矢羽根」三本を配して「知・徳・体」の調和を表し、大きく豊かな「将」の字形は、新生将軍野に萌え立つ若人の成長と未来に拓けゆく願いをこめてデザインしたものである。昭和57年3月制定。



泉中学校

単純なデザインの中に若人の力強さを表し、まろやかな字形をもって調和のとれた豊かな人間性を象徴したものである。



城東中学校

若人のあくまでも明るく、伸び伸びした人間像、それは平和を象徴し、限りなく広い大空に向かって元気に飛び続ける鳩のように、健康な心と体で無限の可能性を追求し、輝ける人生を手にするのを期待する。佐藤勇(秋田市)制作。昭和54年4月1日制定。



飯島中学校

限りなき可能性を、はばたく鳥のイメージで表現し、中学校の(中)の文字と組み合わせデザインされている。三つの羽根は、1年、2年、3年と成長する様を表わしている。



勝平中学校

勝平中の校章は生徒の長沼徹君のアイデアをもとに秋田市美術工芸学校の青木隆吉先生がデザインしてくださったもので、左右の三角形は自然環境を代表する松の葉を、左右対称の形は、生徒たちの清く正しい成長を願って作られたものです。



御野場中学校

翼とペンを図案化した中学校の「中」の文字に、校名御野場中学校の「御」の字を配し、未来に向かって大きく躍進するたくましい若人の姿と勉学に励む精神を象徴したものである。



岩見三内中学校

終戦直後であり、争いのない平和な社会を願って鳩を図案化したもの。翼を広げた鳩の姿は、中学校の「中」を表し、胴体は岩見の「I」、背景のSは三内の「S」を表している。



御所野学院中学校

中学校と高等学校を意味する三角形をモチーフとして力強く組み合わせ、各学年を表す6つのパーツは、個性、愛郷心、向学心、連帯、力強さ、夢の創造を象徴しています。



桜中学校

桜中学校の校章には、日本を代表する花の桜がふさわしい。基本型のペンは学ぶ中学生、5弁の花びらは「自主」・「創造」・「責任」・「協力」・「友愛」という桜中生の合言葉を、『中』の字は世界に飛び立つ、はつらつとした中学生の姿を示している。



秋田大学教育文化学部 附属中学校

平和を願い、世界に雄飛しはばたく精神を象徴したものである。全体をいぶし銀ふうの色調にし、素朴さと、品格を強調したものである。



雄和中学校

雄和中学校の頭文字のYを、雄飛の姿によせ、円の輪は、和合を意味したものである。



河辺中学校

和田中・戸島中が統合し仲良く力を合わせる意味で、外枠は「力」を二つデザインしたもの。「中」の垂線はペンで文、背景の台形は楯を表し、文武両立を表徴している。



聖霊女子短期大学 附属中学校

外形は父（神）と子（キリスト）と聖霊の三位一体を、聖は聖霊、稲穂は実りの祈りを、二つの×は創立者が愛した千鳥が仲睦まじく群れている様を表す。地色の紫紺は聖マリアの精神を象徴する。

おもな事業の報告

各部より

- 。秋田市教育委員会と秋田市PTA連合との教育懇談会
イヤタカ（11月30日）

総務広報部

- 。会報「あきたっ子」の発行
- 。部員研修会
- 「会報のつくり方研修会」
文化会館（6月17日）
- 。ホームページの運営・更新

生活安全部

- 。部員研修会
- 文化会館（6月14日）
- 交通安全街頭指導横断旗配布
（7月11日）

- 。部員研修会

アキタパークホテル
（10月18日）

- 。交通安全関係機関との懇談会

文化会館（11月1日）

- 。第27回秋田市PTA連合会
二円玉福祉募金 運動
（12月1～8日）

文化研修部

- 。自然観察会

小泉瀧（8月6日）

- 。会員研修会

「情報を見極める力」
アキタパークホテル
（11月25日）

- 。部員研修会

「子を持つ親の為の自己理解」
アキタパークホテル
（1月27日）

保健体育部

- 。第43回秋田市PTA親睦バレーボール大会
（9月9日）

- 。第59回秋田市PTA親睦野球大会
県向浜四面球場
（9月16、17日）

- 。会員研修会

「子どもの朝ごはんについて」
アキタパークホテル
（2月17日）

スナップ あきたっ子



1月27日(土) 岩見三内小学校
河辺冬まつり 雪像の上ではいポーズ!



2月5日(月) 岩見三内小学校
昼休みのひとコマ…元気に雪遊び!!

スナップあきたっ子
写真募集!!

秋田市PTA連合会
総務広報部

秋田市山王二丁目1-53
TEL 018-866-2248
FAX 018-866-2252
E-mail:akitapta@cna.ne.jp
http://www.akita-pta.jp/

こちら家庭教育相談

『ぐりーん・えこー』です



秋田市子ども未来センターがオープンして三年目に入りました。

その一角にある『ぐりーん・えこー』は、子育ての悩みや心配事の相談を受け、保護者の皆さんと一緒に考えて来ました。

最近の小中学生に関する相談を紹介してみましよう。

Q1 小学校中学年です。声をかけると「わかっている！」と言い、放っておくと「無視した！」とふくれ、口答えと反抗に困っています。

A1 とても扱いにくい年代に突入したようですね。この時期は『へりくつ期』と言われるだけあって、親がついカッとなって叱りつけてしまうと、ますます口答えがひどくなり、親子げんかに発展してしまいます。

子どもは「一人で考え行動する自分」と「親に甘えていたい自分」との間で揺れているのです。自立への成長過程なので、大らかに見守りましょ

う。また、この時期は、友人関係のトラブルなども多いため、

それでイライラしている場合もあります。落ち着いているときにさりげなく尋ねてみましょう。そのときは口出しせず聞き役に徹し、気持ちを受け止めてあげましよう。



Q2 中学に入り、全く勉強をしなくなっていました。このままでは、ついていけなくなってしまうのではと心配です。

A2 ご心配ですね。お子さん自身も、今のままでいいとは決して思っていないはず。心の中では勉強のことがとても気になっているものです。

そんなときに「勉強しなさい！」「ゲームばかりして！」と頭ごなしに言うてしまうことは逆効果なのです。親の言う通りにしたくない年頃なので、反抗心でますます勉強か

ら遠ざかってしまうことが考えられます。

なぜ勉強しないのでしょうか？◎部活が忙しい◎ゲーム・パソコンに夢中◎遊び仲間と出かける◎悩みを抱えている◎勉強の仕方がわからない◎等々勉強に向かえない理由をお子さんと同じく話し合ってみましよう。

そして、何からなら取り組めるか、お子さんに合うやり方を見つけているところまで、親の手助けが必要かもしれませぬ。あとは見守り、励まします。親が自分を信頼してくれたと思うとき、子どもの心に頑張る力がわいてくるものです。

家庭教育相談 (ぐりーん・えこー)

電話相談・面接相談 9:00~18:00

018(887)5337 (日曜休み)

＜相談内容＞しつけ、不登校、友だち関係、いじめ、親子関係、勉強、進路、習い事、情緒不安定、問題行動、発達の遅れ、etc.

秋田市子ども未来センター内 (アルヴェ5F)

あたりまえの

学校をめざして

オリブ園 後藤 進

(言語聴覚士)

もう三十年以上も前のことですが、今の職場(「こことば」の教室、オリブ園)に、私が勤めた時の驚きを昨日のことのように覚えています。就学期を過ぎた子どもたちが学籍を持たずに何人も通ってきていたのです。すなわち学校にいけない子どもたちがいたということなのです。「障害」があるという理由で、教育の場から閉め出されていたのでした。その後、昭和五十四年に養護学校が義務化され、全ての子どもが学校に行けることになりました。しかし、私は今から思いますとこの時、「障害」をもつと、なぜ学校に行くことができなかったのか、ということについてしっかりととした議論が、もつともつとされるべきだったと思えます。なぜなら、今も、皆と同じ地域の学校に通っていない子どもたちがいるからです。この制度化が、過去に「障害」を持つ子どもたちを閉め出し、てきたという本当の反省の上に立っていないからだと思います。もしかすれば、閉め出してきたという事実すら認識していないのかも知れません。学校、子どもの世界は病んでいくとよく言われます。私

あとかき

の地域に生まれたものはその地域の学校へ)に通うことの出来る方向を旨ざしましよう。と提案したいと思えます。教育の組み立てをそこから始めるのです。学校はそのために何をしなければいけないのか、教員はどれほど必要なのか、養護学校の教員の地域への分配は出来るのか、学習は大丈夫なのか、建物はどうなのか、etc.。突飛な考えと思われれるかも知れませんが、最もあたりまえのことなのではないでしょうか。そのために時間がかかるかも知れませんが、しかし、こうしたあたりまえの方向性こそ、今の学校に求められている最も大切なものなのではないでしょうか。「教育再生」ということはが歩いていきます。子どもの今と明日から離れて歩いていかなないように願っています。

今年には雪の積もらない冬となり記憶に残る年に、あきたっ子100号”の発行となりました。

100号という節目にあたり各校の校章と由来を紹介させて頂きました。これからはあきたっ子の皆さまが学舎ですこやかに過ごされましよう願っております。これまでご協力頂いた皆様心から感謝申し上げます。

秋田北中学校

川村真奈美